

1311 0181

決裁指定

大臣		大臣		大臣		大臣	
次官		次官		次官		次官	
高級副官		高級副官		高級副官		高級副官	
主務副官		主務副官		主務副官		主務副官	
官房主計		官房主計		官房主計		官房主計	
主務課長		主務課長		主務課長		主務課長	
課長		課長		課長		課長	
主務課員		主務課員		主務課員		主務課員	
審案筆記者		審案筆記者		審案筆記者		審案筆記者	
參事官		參事官		參事官		參事官	
主務局長		主務局長		主務局長		主務局長	
連帶局長		連帶局長		連帶局長		連帶局長	
決行後回覽局長		決行後回覽局長		決行後回覽局長		決行後回覽局長	
領受		領受		領受		領受	
大正八年九月十六日		大正八年九月十六日		大正八年九月十六日		大正八年九月十六日	
領受		領受		領受		領受	
大正八年九月十六日		大正八年九月十六日		大正八年九月十六日		大正八年九月十六日	
領受		領受		領受		領受	
大正八年九月十六日		大正八年九月十六日		大正八年九月十六日		大正八年九月十六日	
領受		領受		領受		領受	
大正八年九月十六日		大正八年九月十六日		大正八年九月十六日		大正八年九月十六日	

朝鮮台灣及樺太所有財產之取扱之件

五

建築課

第一七四二號

連署

決行後回覽課名

領受

經受九月八日

1311 0181

裁指定

大官官 課局務士

承入

連番
署名
印
日

本件ニ関シテハ大蔵省
島田部長、海軍省
正 栄 印

✓ 決行後
覽課回
名

日
月
年

決裁案

國有財産法ヲ朝鮮台灣及樺太ニ施行セ
 ラルニ至ル迄、向同地方所在當省所管國
 有財産ノ管理換・交換等ハ左記ニ依リ取
 扱フコトニ決裁相成度

十月四日

左記

一陸軍所轄ノ國有財産ヲ總督府（樺太ニ
 在リテハ樺太廳以下全所）所轄ニ總督府
 所轄ノ國有財産ヲ陸軍所轄ニ管理換セ
 トスルトキハ陸軍大臣ヨリ大藏大臣ニ協議ス
 ルコト

決裁案

國有財産法ヲ朝鮮台灣及樺太ニ施行セ
ラルニ至ル迄、向同地方所在當省所管國
有財産、管理換、交換等ハ左記ニ依リ取
扱フコトニ決裁相成度

十月四日

左記

一陸軍所轄ノ國有財産ヲ總督府（樺太）

一不轄ニ總督府

所轄ニ管理換セ

藏大臣ニ協議ス

總督府ニ協議ス
大臣ヲ大藏大臣ニ協議ス



1315

1314

大正大臣、領定事項

去年三月

陸奥丸の八

公用財産、用途、廢止、其、陸奥丸の八、
大正大臣、引継、其、丸の八、通過、其、
一、国内、公用、財産、陸奥丸の八、通過、其、
二、陸奥丸の八、通過、其、



二、公用ニ供スル目的ヲ以テ土地ヲ交換シ又ハ
 寄附ヲ受ケムトスルトキハ從來ノ例ニ依リ
 統督府ニ於テ之カ処理方同存ハ照會スル
 コト

三、雜種財産ニ編入スヘキ財産ハ之ヲ大藏大臣
 ニ通知スルモ其ノ管理ハ曩ニ大藏大臣ト協
 定、通依然陸軍ニ於テ之ニ任シ統督府ハ
 引継カサルコト

但シ統督府ノ公用ニ供スル爲前第一号ニ
 依^{同存}リ管理換スルモノハ此限ニ在ラス

四、雜種財産ヲ公用財産ト爲シ又ハ公用財産

陸軍省

タル土地ノ用途ヲ変更セムトスルトキハ陸軍大臣ニ於テ之ヲ処理スルコト
五、雜種財産ノ賣拂、讓與、留分ノ内之ヲ行ハサルコト

但シ台湾管舎管繕第四期工事費豫算ノ財源トシテ賣却スルキ不用地ノ処分具
ノ他緊急已ムラ得サシモノニ付テハ臨時機之ヲ
論議スルコト

理由

一、本年四月一日ヨリ國有財産法ニ依り地ニ施行セラルタルモ朝鮮台湾及樺太ニハ未ダ施行

行ニ至ラサレテ以テ之等地方ニ對スル官有財產管理規則(明治三五勅令三九、明治四四勅令二〇〇、明治四四勅令二八九)ハ依然其ノ効力ヲ有セリ然ルニ之等管理規則ハ当該地方所在ノ各省大臣ニ所屬ノ國有財產ニ對シ適用セラルルヤ否ヤニ關シ大藏省ト總督府トノ間ニ見解ノ相違ヲ來セリ

ニ即チ大藏省ニ於テハ朝鮮、台湾、樺太(官有財產管理規則)ハ当該總督府ノ直接所轄ニシテ國有財產ノ取扱ニ關スル特別規定ニシテ當該地方所在ノ各省所轄財產ニ對シ効力アルモノト認ム後之等各省ノ財產

二 対シテハ適用スヘキ規定ナキコトハナルヲ以テ
 恰モ外國所在ノ財産同様管轄官廳ハ國有
 財産法令ニ準據シ財産事務ヲ処理スヘキ
 モノナリト主張シ又總督府側ハ從來ノ通管理
 規則ニ依リ取扱フハ當然ニシテ未タ該地方ニ施
 行セラレサル國有財産法令ヲ適用スルハ理由ナ
 シト難セリ
 三之カ爲當省トシテハ双方主張ノ何レニモ加担スル
 ヲ避ケ管理換交換其他ノ財産事務ヲニシテ
 總督府關係ノ懸案ナクモハ暫ク之ヲ保留シ一
 面大藏省ニ對シ速ニ國有財産法ヲ當該地方

1320

1319

第三十三條
 本條朝鮮並俄國之樺太
 行なふ場合ニ於テ必要ノトキニ
 以テ特別定メ得ルニ付
 勅令



二施行スハキ勅令制定、審議ヲ進メテ度
 旨厚々文涉ヲ重ネタリ
 四然ルニ談法律ノ此等地方ニ施行スルコトハ省
 府共ニ異存ナキ所ナルモ同法第百十ニ條ニ基テ
 特例ノ如キ田ノ實ニ總督府例ハ内地ノ財主等ニ
 對シ大藏大臣ニ附與セテアル職務總括權
 ト同様ノ權限ヲ總督ニ附與スルコトヲ主張シ之
 ニ反シ大藏省ハ殖民地財産ニ對シテモ大藏
 大臣ニ於テ總括權ヲ掌手握シ以テ財務總轄ノ
 實ヲ全セント主張シ互ニ相讓ラサル爲施行
 勅令未キ嘗て廢止ノ目下殆ント同法ノ施

卷
 四

行ハ見込サキ案ニアリ

五、而シテ當省ニ於ケル對總督府關係財産事務ノ未決案件ハ日ヲ逐テ増加シテ既ニ數十件ノ多数ニ達シ中ニハ要急差擱ヲ難キモノアリ

大抵テ差當リ兩者主張ノ何レモ背馳セサル限
度ニ於テ処理シ得ヘキ案件ノ進行ヲ阻ルヲ
必要ト認メ本各ホヲ起案ホセリ而シテ本各ホハ
折衷策ナルヲ以テ國有財産法及官有財産
管理規則ノ兩者共通用アルコトヲ是認スル
結果トナルモ蓋シ已ムヲ得サル所ナリトス

國有財産法施行令

第四條 右二種ノ場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スルコト

一 公用財産ニシテ土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏

大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ

ニ 公用財産ト為スノ目的ヲ以テ土地ノ支拂ヲ為シ又ハ借附

ヲ受ケムトスルトキ

三 雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト為サントスルトキ

四 營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條 各省大臣公用財産ト為スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ

收用ヲ為シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ返還ナラズテ大藏大臣

ニ通知スルヘシ

陸



軍

第六條 前三條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産

及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スル一々財産ニ付テマ適用ス

東洋通商
條約

1323

七、決裁案左記各項ニ付細説スレハ左ノ如シ

第一項ハ從來大臣ト総督トノ協議ノモ依

リ処理シタル所ナルモ國有財産法施行

令第三條ノ主旨ニ依リ當省ヨリ大藏大

臣ニ協議スルコトニセリ

第二項ハ施行令第六條ニ依リ大藏大臣ニ

議ヲ要セス當省限り処理シ得ル事項

ナルヲ以テ交換又ハ受寄ヲ陸軍直接

処理シ若クハ總督府ニ移シテ処理スルモ

大藏省間ノ問題トナササルヲ以テ總督府

主張ノ通同府ニ移シテ処理スルコトニセリ

國有財產法施行

身三條 各府大臣 國有財產法
理撥 之 多 々 上 上 所 管 大臣 及
大臣 大臣 協 議 又 王



國有財產法

方面 國有財產法 雜種財產 除 外 之 讓
渡 又 之 特 權 之 設 定 又 コト 得 不 一

大臣 大臣 協 議 結 果 法 所 管 雜種財產
財產 法 之 雜種財產 大臣 大臣 之 協 議 又 議

第三項之依ル不用財産ハ從來ト專ニ不用ト
 ナレド都度直ニ總督府ニ引継テ勵行
 セルコトヤリ殆ント總督府ノ公用ニ供スル必
 要ヲ生シタルモノ又ハ賣却其他ノ処分ヲ
 爲スコトニ決定シタル場合依リ富商
 於テ直接管理スルコトセリ

第四項ハ施行令第六條ニ依リ大藏大臣ノ
 議ヲ要セザル事項ニ屬シ且管理規則
 ニハ該當ノ明文ナキニ依リ陸軍大臣限
 リ処理スルコトセリ

第五項、賣拂讓與ハ財産法ニ依リ陸軍

大臣ノ權限ニ屬シ管理規則ニ依ルトキ
 〃 総督ノ權限トナリ折衷ノ手取ナキヲ
 以テ之カ処理ヲ保留シ要急ノモノニ限
 リ個々ノ事實ニ付詮議スルコトナセリ

其ノキ法文ナキ為所管者ニ陸軍大臣
 之ヲ裁奪シ得ル



陸軍

参 考 其 三

朝鮮官有財産管理規則

(明令第十四号。七年)

第二條 朝鮮總督所轄ノ官有財産ハ特別ノ規
定ヲル場合ヲ除ク、外本令ニ依リ朝鮮總
督之ヲ管理処分ス

臺灣官有財産管理規則

(明令三十五号。二年)

第二條 臺灣ニ於ケル官有財産ノ管理ニ
ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク、外總督
令ノ規定ニ依ル

第三條 官有財産ハ臺灣總督之ヲ管理ニ
依ル

樺太官有財産管理規則

(明令第十四号。七年)

七

四

等二條樹太麻長官所轄ノ官有財産ハ本令
ニ依リ様太麻長官之ヲ管理シ地令ス

國有財産法

第三十五條 本法ヲ朝鮮 臺灣 又ハ樺太ニ施行
スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ
特別ノ定ヲ為スコトヲ得